

VI-5

保護者との連携が重要です

(1) 保護者との関係づくり

児童生徒への指導を効果的に行うには、保護者との信頼関係を築くことが大切です。そのため、保護者の心情を受け止めつつ、児童生徒への指導内容や方法について共通理解を図ることが大切です。

信頼関係を築くポイント（例）

① 保護者との日頃のつながりと肯定的な姿勢

保護者は、教師が自分の子供をよく理解し、よいところを伝えてくれる、自分の子供の成長を願って声を掛けてくれる姿を見えています。

② 保護者支援から協働へ

誰かに助けてもらいたくても、一人で悩み、頑張っている保護者もいます。教師は、保護者の子育ての不安や苦労を分かろうとする姿勢が大切です。

③ 保護者の人生を大切にする

この先生には何を言っても大丈夫という存在となるよう、誰にも言えなかった「我が子の育てにくさ」や自責の念など、今までの子育てや、一人の人間としての思いをしっかりと聴き、受け止めることが大切です。

(2) 保護者との協働

保護者と信頼関係を築き、学校と家庭が特別な教育的支援を必要とする児童生徒を協働で支援することは、教育的な効果の高まりにつながります。

○ 保護者との協働のポイント

- ・学校での状況や取組、変容等を丁寧に、誠意をもって伝えます。
- ・児童生徒の成長を中心に伝えながら、更なる成長に向けて、家庭での様子も参考にしつつ、保護者とともに今後の対応を考え、学校と家庭が同じ目標で取り組めるようにします。

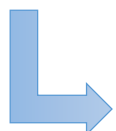


(3) 個別の教育支援計画等の保護者との共有

就学先の決定に向けて、市町村教育委員会が保護者と合意形成を図った支援の内容や合理的配慮を踏まえるとともに、保護者との情報交換や話し合いで確認された支援内容等に関しては、保護者の同意を得つつ、個別の教育支援計画等に整理して記載していくことが重要です。また、学校や家庭、関係機関における支援内容や役割分担を明確にし、長期的な視点で教育的支援を行うために、個別の教育支援計画等を保護者とも共有しておくことが大切です。

(4) 保護者を含むチームでの話し合い

学級担任と保護者だけで情報交換を行っても、課題の解決への支援内容が見つけにくいことがあります。



特別支援教育コーディネーターをはじめとする校内の他の教職員、校外の専門家等にも相談し、保護者と共にケース会議を開催することが有効です。

